

Slide 1

要旨

2009年7月22日、講演者が公開していた YouTube 動画に押し寄せた 1000 以上のアクセスのうち、数%が関係書類を求める行動に出た。このトラフィックを発生せしめたのは、日頃のセルフアーカイビング活動であり、それを支えたのは講演者が約8年前から築いてきた情報環境 (電子化実験ノートや、ホームページと同期する電子化研究業績リスト) である。この中から、リポジトリに採用を望む機能を提案する。

<http://pubman.mpdl.mpg.de/pubman/item/escidoc:94968>

DRF 技術ワークショップ (技術と研究が出会うところは):
Workshop of application of Infrastructure for eScience and eResearch
— 研究成果やデータを永久保存していく活動へ向けて
2009年9月7日: 京都大学附属図書館ライブラリーホール

自己紹介

轟 眞市

- 光ファイバの研究 (NTT → NIMS)
⇒ 最近の成果は OA ジャーナルに
- 研究生活を題材にした読みもの執筆 (+その英訳)
⇒ 雑誌 (紙媒体)、 Scribd
- T_EXnician, Rubyst, Debian GNU/Linux user
- NIMS Digital Library eSciDoc 構築協力中

Slide 2

内容

研究情報環境が備えるべき機能

SA 事例

47 日前に起こった珍事とは?

演者の情報環境

珍事を発覚せしめた舞台裏は?

リポジトリへの期待

舞台裏から盗んで欲しい機能とは?

Slide 3

SA 事例 2009年7月22日

Slide 4

SA 事例 紹介されたYouTubeビデオ

- 2005年3月作成、その一部をOA-ジャーナルに掲載

追加済み: 2006年11月29日 05時37分06秒 時間: 0:41
再生回数: 4,583 評価: ★★★★★

- 2つのURLを案内
 - ⇒ 講演者のファイバビューズ論文リスト
 - ⇒ 一般向け英文エッセイ@ Scribd

Slide 6

SA 事例 LaserFocusWorld → Slashdot.org

7/20 「自動車エンジンのレーザー点火研究が新局面」

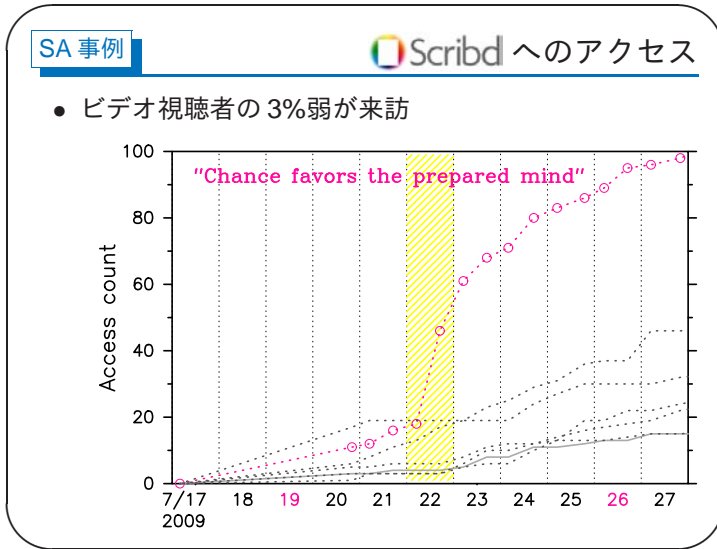
Slide 5

SA 事例 講演者ホームページへのアクセス

2009年	in English	アクセス数
7/18(土)	2	1
7/19(日)	4	2
7/20(月)	3	.
7/21(火)	5	1
7/22(水)	6	15
7/23(木)	3	4
7/24(金)	6	1

- ビデオ視聴者の1%強が来訪
- Open Access 論文3報を列挙 ← 追跡不可能

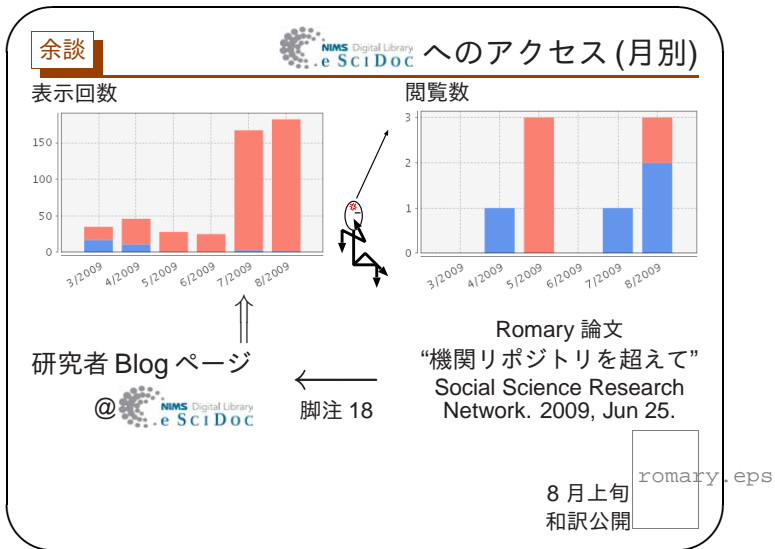
Slide 7



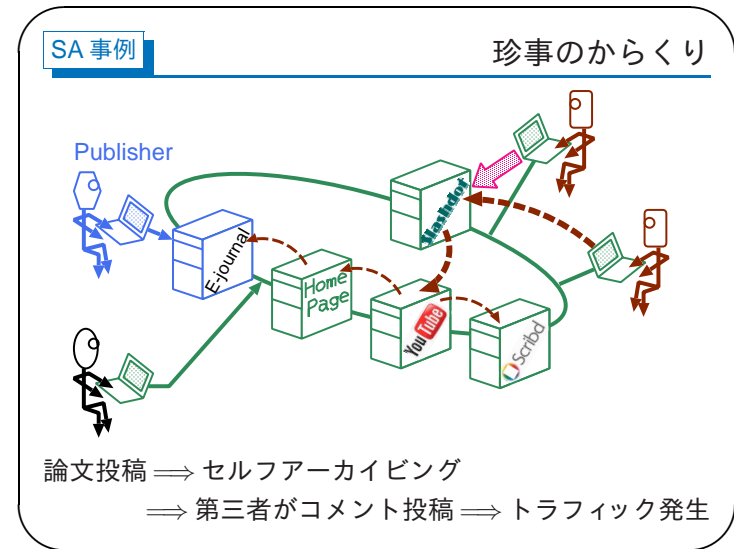
Slide 8



Slide 10



Slide 9



Slide 11

SA 事例 珍事を発覚せしめた舞台

- 関連素材もセルフアーカイブ
- 素材間にリンク
- アクセス統計を取得

Slide 12

演者の情報環境

珍事を発覚せしめた舞台裏は？

- トラフィックが発生しうる舞台
- // を発見しうる体制

↑ 最小限の手間で管理

8年前からの取り組みを紹介

Slide 14

内容

研究情報環境が備えるべき機能

SA 事例

風が吹けばセルフアーカイブしていた者が儲かる

演者の情報環境

珍事を発覚せしめた舞台裏は？

リポジトリへの期待

舞台裏から盗んで欲しい機能とは？

Slide 13

演者の情報環境

珍事を発覚せしめた舞台裏は？

執筆以前

手元に集めた情報をどう管理するか？

執筆支援

過去の原稿ファイルをすばやく探すには？

執筆以降

手間を掛けずに PR し、反響を把握するには？

Slide 15

執筆以前

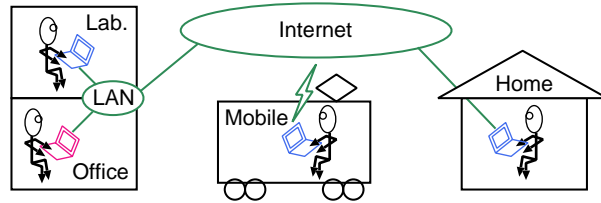
ポケットひとつの原則

～「超」整理法／野口悠紀雄

- ネットワークを介して HDD の中身を同期
- どの PC でも同じフォルダに同じファイルが見える

参考:  

- **USB メモリは紛失しやすい!** 文献 [5] 参照



Slide 16

演者の情報環境

珍事を発覚せしめた舞台裏は？

執筆以前

ポケット一つの原則: HDD 同期と実験ノート電子化

執筆支援

過去の原稿ファイルをすばやく探すには？

執筆以降

手間を掛けずに PR し、反響を把握するには？

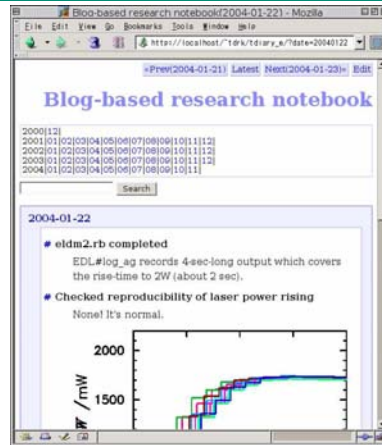
Slide 18

執筆以前

実験ノートの電子化

- ブログ
+ パスワード認証
- 職場／自宅で
書込／閲覧
← HDD の同期
- 全文検索可能

文献 [7] 参照

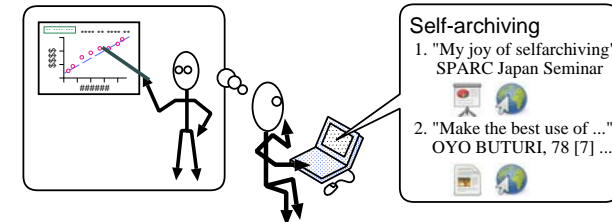


Slide 17

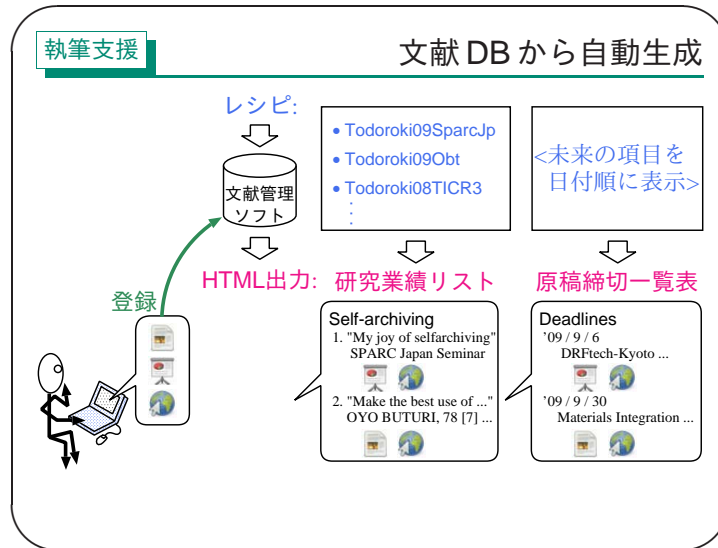
執筆支援

自作ファイルの素早い検索法

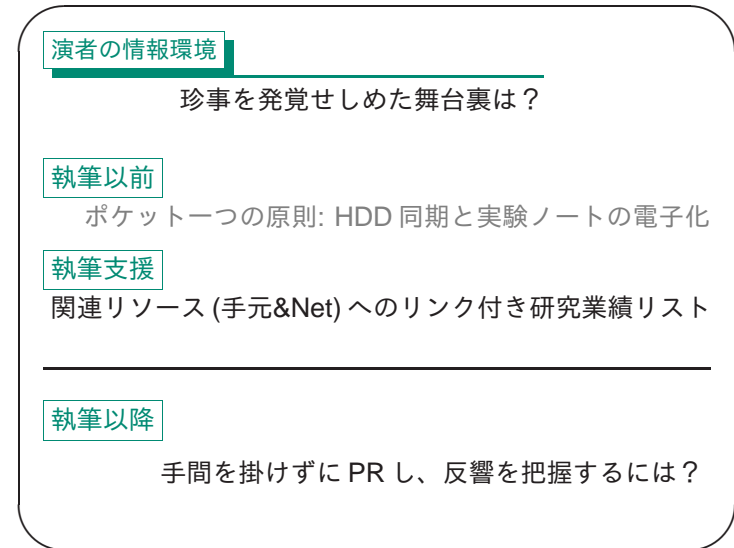
- 研究業績リストにファイルへのリンクを張り付ける
「発表した記憶」 ↔ 「ファイルの保存場所」
- 画像ファイルも見付けやすくなる 文献 [6] 参照



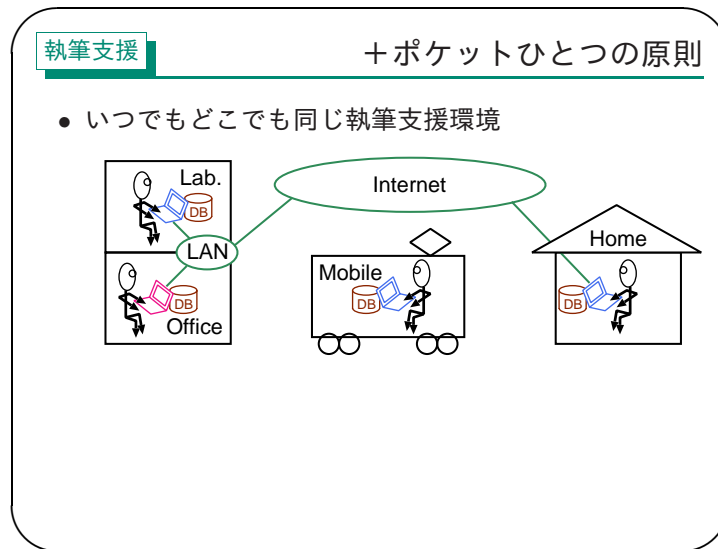
Slide 19



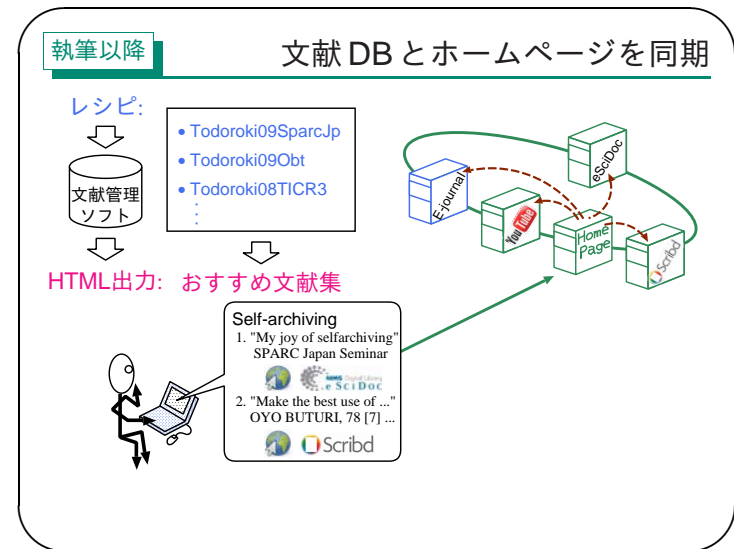
Slide 20



Slide 22

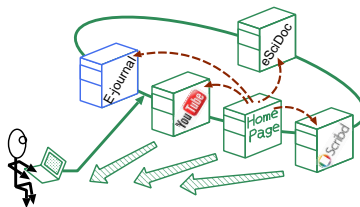



Slide 21

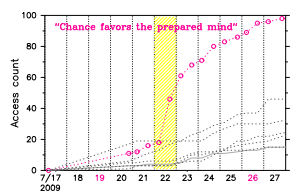


Slide 23

執筆以降 アクセス統計を半自動収集

2009年		in English							
7/18(土)	2	.	1	.	2	1	.	.	.
7/19(日)	4	1	2	1	1	2	.	.	.
7/20(月)	3	.	.	1	4	8	1	1	1
7/21(火)	5	1	1	.	7	12	1	1	1
7/22(水)	6	1	15	1	5	13	2	2	2
7/23(木)	3	.	4	.	6	7	1	1	1
7/24(金)	6	.	1	.	6	8	2	1	1



Slide 24

内容

研究情報環境が備えるべき機能

SA 事例

風が吹けばセルフアーカイブしていた者が儲かる

演者の情報環境

IT で実現したポケット一つの原則と研究業績リスト

リポジトリへの期待

舞台裏から盗んで欲しい機能とは？

Slide 26

演者の情報環境

珍事を発覚せしめた舞台裏は？

執筆以前

ポケット一つの原則: HDD 同期と実験ノートの電子化

執筆支援

関連リソース (手元&Net) へのリンク付き研究業績リスト

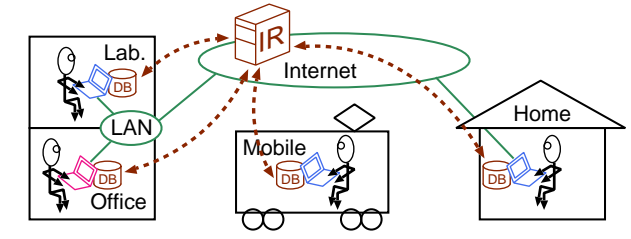
執筆以降

業績リストとホームページの同期。半自動アクセス統計

Slide 25

リポジトリへの期待 ポケットひとつの原則の実現

- 中堅以上の研究者は皆 自分 DB を持っている
- ⇒ DB 間の自動同期が無ければ破綻は必定



Slide 27

リポジトリへの期待 **アーカイブとの自動同期**

- PC上のファイル格納位置も管理

- 過去のファイルはリポジトリから検索
- ファイルのバージョン管理、共同執筆サポート

Slide 28

リポジトリへの期待 **実験データの SA → eScience**

- 論文: 紙 → 電子
⇒ 図面: Dot Matrix 画像 → 生データ + 可視化手段
- 論文の裏付け (トレーサビリティ) を対外表明

文献 [4] 参照

公開範囲: 今まで → これから

Slide 30

リポジトリへの期待 **執筆支援 (give) で青田刈り (take)**

コレクションの青田刈り

過去 → 未来

発表申込、執筆依頼、論文投稿

「ゆりかご」

業績リスト、ホームページ

予定表

出カサービス

「アーカイブ」

NAVI-GATOR

Cradle-to-Archive

Slide 29

リポジトリへの期待 **演者が SA をするならば...**

査読済論文内動画

PLoS ONE, 3 [9] e3276 (2008)

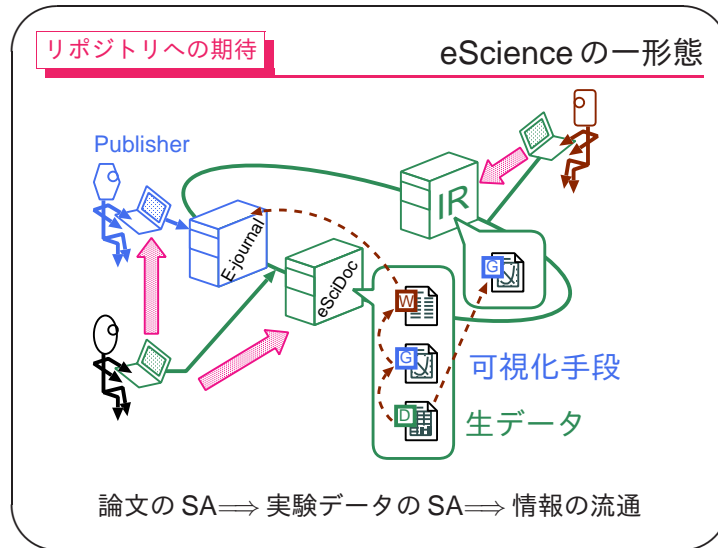
可視化手段
Ruby スクリプト

生データ
バイナリファイル群

超高速カメラ
Photron APX-RS

電子化実験ノートで管理

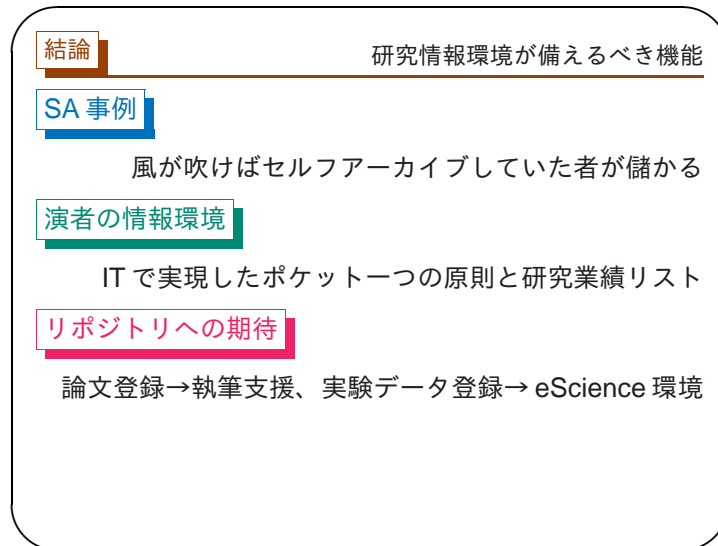
Slide 31



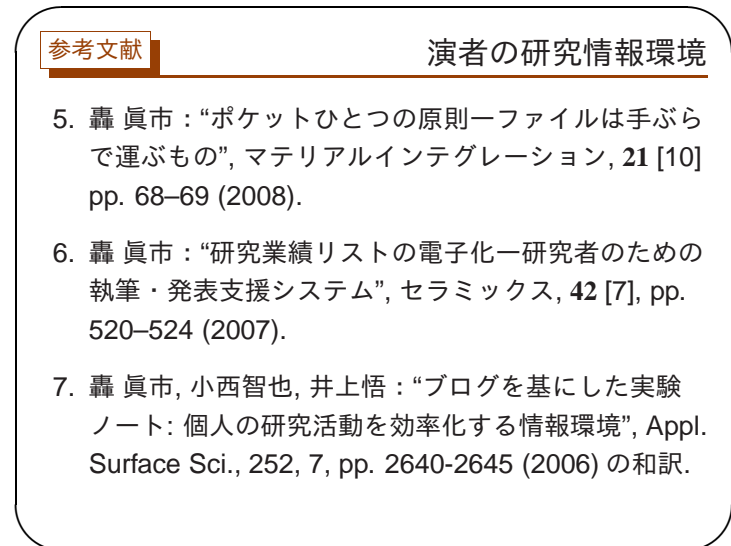
Slide 32



Slide 34



Slide 33



Slide 35